

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。

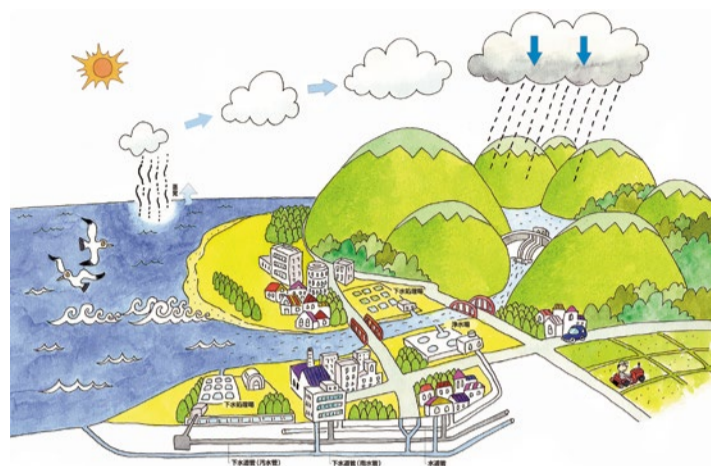


シティライフNEWS で検索

上下水道が抱える課題 地域ごとに異なる事情と対応策

水道料金は各市町村によって大幅に異なる。電気やガスと同様に民営化に向けた動きも見られるが、法律や管轄が複雑にからみ合う上下水道には設備の老朽化などの課題も多く、戦後の整備以来、経営の変革まで含めた対策に迫られている。

- 【上水道】 普段生活で使用している水道のこと。水道法により、各市町村が事業を実施している。
- 【下水道】 市町村が管轄する公共下水道ほか、都道府県が管轄する流域下水道などもある。汚水処理だけでなく、雨水を排除して浸水を防ぐ役割も。



▲水の循環図 出典:日本下水道協会

市町村間の 上下水道料金の差は大きい

各市町村間の上下水道料金は、浄水場や下水処理場、配管など設備の維持・管理にかかる費用がほとんどを占めている。配管が長くなれば費用もかさむため、特に人口の少ない山間部は一世帯あたりの負担が大きくなるようだ。また、利用料金だけ

■上下水道料金表 (円)

	上水道	下水道
池田市	2,548	1,328
箕面市	2,904	1,829
豊中市	2,451	1,395
吹田市	2,235	1,568
摂津市	2,728	2,257
茨木市	1,998	1,998
高槻市	2,376	1,930
神戸市	2,516	1,566
西宮市	2,727	1,745
芦屋市	2,484	1,458

(注)20m/月 使用の場合、小数点以下は繰り上げ。メーター使用量などは含まず。4月17日現在各市HPをもとに作成

ではその費用をまかなえないため、税金を財源とする公費の投入も大きく、料金は自治体の財政状況によっても左右される。料金設定は各自治体の判断にゆだねられているが、人口減少が続く中、公費負担は増加傾向にあり、全国的に水道料金の値上げに踏み切る自治体も多い。

設備の老朽化に収入減少… 地域ごとの対応が急務

下水道は、高度経済成長期に集中的に整備が進められてきたが、現在では老朽化が進み、次々に更新時期を迎えている。しかし、更新や耐震化はなかなか進まない。平成26年度の調査では、全国で法定耐用年数を過ぎた上水道老朽管の残存率は全体の12.1%にのぼり、特に大阪は27.2%と全国ワースト1に。人口減少や節水意識により水の需要が減り、料金収入も減少したことで、更新にかかる財源の確保が困難になったためだ。しかし、管の老朽化は漏水事故や水道管破裂の原因とな

■水道管路の法定耐用年数(40年)を超えた管延長・割合

		管延長(km)
1	大阪府	6,527.4
2	神奈川県	5,533.9
3	愛知県	5,369.7
4	北海道	3,809.8
5	兵庫県	3,718.7

		残存率(%)
1	大阪府	27.2
2	神奈川県	21.4
3	山口県	19.4
4	奈良県	17.5
5	香川県	16.9

平成26年度版水道統計より

る。水需要に見合った施設へのダウンサイジングも含め、住民に納得できる形で早急な対応が求められている。中でも、兵庫県は都市部と山間部が混在するためにエリア間格差が大きく、それぞれの地域特性に応じた対策が必要となる。また、専門職員の高齢化により技術力の低下や技術継承が困難な状況にあり、今後の課題は山積みだ。

施設の統廃合など 安定経営を目指す

大阪市では、上水道の民営化が検討されてきたが、水の品質維持や安定供給を巡って議会で反発が広がり、可決には至らなかった。大阪府では現在、上水道の事業統合を進め、大阪広域水道企業団による経営の一体化を推進。概ね20年程度を視野に入れ「府域一水道」を目指す。兵庫県でも昨年、有識者や県、市町が一体となり協議・検討する「兵庫県水道事業のあり方懇話会」を設立。広域連携の検討の場の設置を進め、不足する専門職員の確保・育成を目的とした支援の仕組みづくりの検討を行っていく。一方下水道については、大阪府では経営基盤の強化のために平成30年度から公営企業法を適用させ、財政状況の問題点を洗い出すことで安定的な事業運営を目指す。兵庫県でも、下水処理施設の統廃合をスムーズに進めるとともに、まちづくり技術センターによる講習会の開催で技術者の育成をサポートするなど、対策を進めている。

交通規制を伴う 自転車レーンを整備

高槻市は、宮田町1丁目から土室町までの約1,470mに自転車専用レーンの整備を行い、3月から開始した。13歳未満の子どもや70歳以上の高齢者など以外は、この自転車レーンを通行しなければならない。道路交通法によって交通規制が伴う自転車専用レーンは大阪府内では初めてだ。高槻市は、他市に比べて自転車利用率が高く、自転車関連事故が増加傾向にあり、かねて



より「たかつき自転車まちづくり実行計画」を策定し、自転車通行空間の整備を行ってきた。そして今回、高槻警察と同市が連携協力し、増加傾向にある自転車事故を少しでも減らそうと実現にこぎつけた。自転車は、道路交通法で軽車両に分類される自動車と同じカテゴリーであるため、原則、車道の左側を車と同じ方向に走行しなければならない。しかし、歩道を走るものと思っている人や車道を走行することに不安や恐怖を感じている人も多いという。同市は、自転車空間の整備を行うとともに、啓発活動にも積極的に取り組んでいく方針だ。

箕面公園昆虫館 リニューアルオープン

箕面公園昆虫館は4月、触れ合える昆虫館へとリニューアルした。一新したエントランスには、めずらしい昆虫の映像をモニターで見ることができる。また、オリジナルアニメーションで昆虫の生態などを分かりやすく解説する映像シアターやキッズルーム、昆虫グッズが購入できるミュージアムショップも誕生した。生きた昆虫と触れあえるイベントも開催される。また、世界最大のカブトムシ、ヘラクレスカブトムシの展示も。[目(もく)]ごとの展示や興味を引くような表現で、興味を持って昆虫の生態を学べるような工夫があちこちに。



▲四季折々の花や木のなか、常時200匹以上の蝶が飛び交う放蝶園。

にも実施予定。なお、リニューアル記念第1弾として、世界中から集められた昆虫の展示、「きらめく昆虫展」を8月頃まで開催している。新館長に就任した中峰空(ひろし)博士は、「見て、触って、疑問が解ける、見たことや体験したことを誰かに話したくなるような昆虫館にしたい」と話す。

開館時間10時～17時(入館は16時半まで)。毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始は休館。入場料は高校生以上一人 270円、中学生以下無料。

